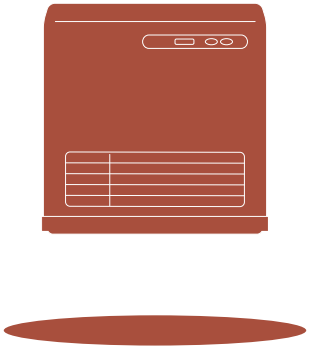
省エネ機器の上手な使い方・選び方

「ガスストーブ・石油ストーブ」

使い方しだいで燃料の無駄を省くことができます。



■ 上手な使い方

● お手入れで省エネ

ファンヒーターの性能をフルに活用するには、フィルターのお手入れは欠かせません。掃除機でほこりを吸い取ったり、ぬるま湯で洗ってからしっかり乾かしましょう。



● 適度な湿度を保ちましょう

湿度が低いと寒く感じ、高いと温かく感じられます。



● 早めの電源オフ

人の居ない部屋は必ず消しましょう。電源をオフにしても、室温は急には下がりません。お出かけや就寝の15分くらい前に消すのがコツ。1日あたり1時間運転を短縮した場合、年間でガスおよそ12.68立方メートルの省エネ。ガス料金に換算すると約2,050円の節約になります。

※ガス162円/立方メートルとした場合（平成29年版ガス事業便覧 平成28年度 実績供給約款 料金平均（合計平均）を45MJに換算 小数点第一位を切り捨て）

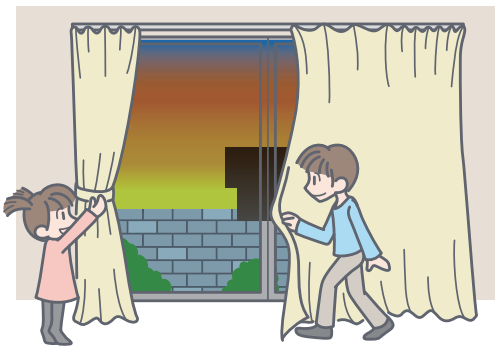


このページのデータは一般財団法人 省エネルギーセンターの実測値に基づき算出しています。

■ 省エネのコツ

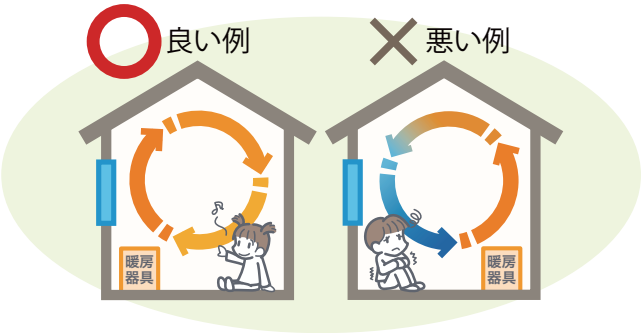
● 昼間はカーテンを開けて日射しを取り入れ、日没後はカーテンを閉めましょう

カーテンは長い厚手のものにすると効果的です。



● 設置場所も重要

ヒーターは、窓際に置く方が効率よく室内を暖められます。



ヒーターは窓を背にして置くと暖房効果が大きくなります。

窓から離れた場所に置くと、暖かい空気が窓際で冷やされ、それが室内に循環すると効率が悪くなります。

■ 上手な選び方

使用地の気候、建物の構造、使う部屋の広さに合ったものを選びましょう。

● 暖房機の種類

給排気方式と伝熱方式によって、いろいろな種類のストーブがあります。このカタログは省エネ法対象の機器を掲載しています。

給排気方式と伝熱方式

給排気方式

開放式　：空気を屋内からとり、排気も屋内に出す方式**（省エネ法対象外）**
密閉式　：給排気筒によって、空気を屋外からとり、排気も屋外に出す方式
半密閉式　：空気を屋内からとり、排気を排気筒によって屋外に出す方式

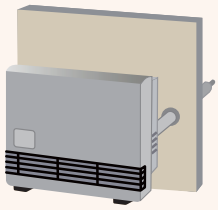
伝熱方式

強制対流式：ファンによって室内の空気を強制的に循環させ、部屋を暖める方式
自然対流式：空気の温度差によって自然に室内の空気を循環させ、部屋を暖める方式
放射式　：燃焼ガスの熱を放射熱として利用し、部屋を暖める方式

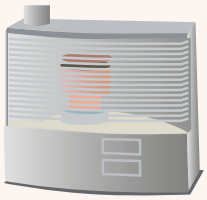
● 省エネ法対象のストーブ

省エネ法では、ガスストーブの「密閉式」、石油ストーブの「密閉式」、「半密閉式」が対象になっています。

省エネ法対象のストーブ例



FF式暖房機（密閉式強制対流式）ガス・石油

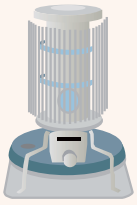


煙突式（半密閉式放射式）石油のみ

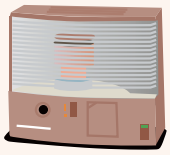
給排気筒などが無い開放式の暖房機は、省エネ法の対象ではありません。



強制対流式



自然対流式



放射式

● 部屋の広さ

「暖房の目安」を参考にして、部屋の広さにあったものを選びましょう。「木造○畳、コンクリ○畳まで」は、温暖地（室内外の温度差が15℃の地域、東京・大阪など）と寒冷地（室内外の温度差が30℃の地域、札幌など）では目安となる部屋の広さが異なります。

※ここでは温暖地を基準にしています。



ガスストーブ　目標年度2006年度



石油ストーブ　目標年度2006年度

省エネ基準達成率が高いほど省エネに優れています。

エネルギー消費効率

エネルギー消費効率が100%に近いほど、省エネ性が優れた機器といえます。

省エネ基準達成率

その製品が属するトップランナー基準の区分の目標基準値を、どの程度達成しているかを%で示します。
ガスストーブのFF式（密閉式）の目標基準値は82.0と設定されています。石油ストーブは、給排気方式や伝熱方式によって分けられた区分ごとに、目標基準値や目標基準値算定式が設定されています。

例：石油FF式暖房機（強制対流式）　目標基準値 86.0
　　石油半密閉式暖房機（放射式）　目標基準値 69.0



ガスストーブ

■ 掲載製品

都市ガス（13A）又は液化石油ガス（LPG）を使用するFF式暖房機を掲載しています。ただし、開放式、半密閉式のものは対象外です。

※FF式暖房機（密閉式強制対流式）：密閉式とは燃焼用の空気を屋外からとり、排気を屋外に出す方式で、強制対流式とはファンを使って強制的に空気を循環させ、部屋を暖める方式です。

省エネ性能カタログの区分　適用畳数によって行っています。
（サイトでは絞り込み検索ができます。）

木造9畳 コンクリート13畳まで
木造11畳 コンクリート15畳まで
木造13畳 コンクリート18畳まで
木造14畳 コンクリート19畳以上

■ 一覧表の各種表示について

● エネルギー消費効率（%）

ガスストーブのエネルギー消費効率は、熱効率（%）を用います。

$$\text{熱効率（\%）} = \frac{\text{（消費したガスの発熱量ー排気ガスが持ち去る熱量）}}{\text{消費したガスの発熱量}} \times 100$$

● 暖房出力（kW）

最大・最小燃焼時に室内に与える、単位時間あたりの熱量です。暖房出力の目安は、温暖地の木造の場合398W/畳、コンクリートの場合288W/畳です。

● 暖房の目安（畳）

暖房の目安は、温暖地（室内外の温度差が15℃の地域、東京・大阪など）を基準にしています。「木造」とは木造戸建住宅、「コンクリ」とはコンクリート集合住宅を指します。いずれも一重窓で断熱材なしの建物です。断熱材を施してある場合は、約1.2倍の広さまでが目安となります。寒冷地（室内外の温度差が30℃の地域、札幌など）の木造住宅は二重窓で断熱材が施されており、木造で約1.2倍、コンクリートで約1.5倍の広さまでが目安となります。

● ガス消費量（kW）

最大・最小燃焼時において、単位時間あたりに燃焼で消費するガスの熱量を表しています。

● 消費電力（W）

最大燃焼時の消費電力を表示しています。



石油ストーブ

■ 掲載製品

FF式暖房機及び半密閉式暖房機です。ただし、開放式のもの、最大燃料消費量2.75L/h超のFF式暖房機、最大燃料消費量4.0L/h超の半密閉式暖房機は対象外です。特注生産品、特殊仕様品等は対象外です。

省エネ性能カタログの区分　給排気方式、伝熱方式、適用畳数によって行っています。
（サイトでは絞り込み検索ができます。）

石油FF式暖房機（強制対流式）木造9畳・コンクリート13畳まで
石油FF式暖房機（強制対流式）木造11畳・コンクリート15畳まで
石油FF式暖房機（強制対流式）木造13畳・コンクリート18畳まで
石油FF式暖房機（強制対流式）木造15畳・コンクリート21畳まで
石油FF式暖房機（強制対流式）木造17畳・コンクリート23畳まで
石油FF式暖房機（強制対流式）木造21畳・コンクリート29畳まで
石油FF式暖房機（強制対流式）木造22畳・コンクリート30畳以上
石油半密閉式暖房機（放射式）木造15畳・コンクリート21畳まで
石油半密閉式暖房機（放射式）木造17畳・コンクリート24畳まで
石油半密閉式暖房機（放射式）木造20畳・コンクリート28畳まで
石油半密閉式暖房機（自然対流式）木造15畳・コンクリート21畳まで
石油半密閉式暖房機（自然対流式）木造17畳・コンクリート24畳まで
石油半密閉式暖房機（自然対流式）木造20畳・コンクリート28畳まで
石油半密閉式暖房機（自然対流式）木造21畳・コンクリート29畳以上

FF式暖房機（密閉式強制対流式）：密閉式とは燃焼用の空気を屋外からとり、排気を屋外に出す方式で、強制対流式とはファンを使って強制的に空気を循環させ、部屋を暖める方式です。

半密閉式暖房機：半密閉式とは燃焼用の空気は室内からとり、排気は屋外に出す方式です。

放射式と自然対流式：放射式は主として燃焼ガスの熱を放射させ、部屋を暖める方式で、自然対流式は加熱された空気の温度差により、自然に空気を循環させ、部屋を暖める方式です。

■ 一覧表の各種表示について

● エネルギー消費効率（%）

石油ストーブのエネルギー消費効率は、熱効率（%）を用います。

$$\text{熱効率（\%）} = \frac{\text{（消費した石油の発熱量ー排気ガスが持ち去る熱量）}}{\text{消費した石油の発熱量}} \times 100$$

● 暖房出力（kW）

最大・最小燃焼時に室内に与える、単位時間あたりの熱量です。暖房出力の目安は、温暖地の木造の場合398W/畳、コンクリートの場合288W/畳です。

● 暖房の目安（畳）

暖房の目安は、温暖地（室内外の温度差が15℃の地域、東京・大阪など）を基準にしています。「木造」とは木造戸建住宅、「コンクリ」とはコンクリート集合住宅を指します。いずれも一重窓で断熱材なしの建物です。断熱材を施してある場合は、約1.2倍の広さまでが目安となります。寒冷地（室内外の温度差が30℃の地域、札幌など）の木造住宅は二重窓で断熱材が施されており、木造で約1.2倍、コンクリートで約1.5倍の広さまでが目安となります。

● 燃料消費量（L/h）

最大・最小燃焼時において、単位時間あたりに燃焼で消費する灯油量を表しています。

● 消費電力（W）

点火時と最大・最小燃焼時の消費電力を表示しています。